鳴海ヶ丘会々報

発　行
宮崎県立高鍋高等学校
同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町
大字北高鍋４２６２
ＴＥＬ　0983・23・0005
ＦＡＸ　0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

『原点』

監督　山本　巧

今年のテーマは「原点」でした。県内５連覇を成し遂げた今だからこそ、原点に戻り結束を高めようと藤本前監督がつけてくださいました。

新人戦で優勝したものの、その原点の意味さえ分からず、また私の力不足でチームは不安定な状態が続き、総体では日向高校に完敗してしまいました。その後も負け続け全国予選直前まで苦しい日々が続きました。しかしその負けから「原点」へのヒントをつかみました。その答えは日々の練習や生活にありました。敗者に必要なのはやはり謙虚な姿勢や感謝の気持ちであり、ひたむきに苦しい練習を繰り返し、毎日の生活を見直すことで自分達の原点に戻る事が出来たような気がします。

少ない３年生を中心に、一度は崩れかけた希望を決して諦めることなく、よく我慢し、まとまり、自分達の手で夢をつかみ取ってくれました。６連覇は彼らの必死の努力の賜です。

大会出場にあたり、寄付活動を始め多くの方々に物心両面からお世話になりました。たくさんの支えがあってこその花園出場であり、原点に戻ることができたのは皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

雨の中、富山工戦を応援する高鍋高校応援団

一回戦
高鍋　43－7　富山工業高校

二回戦
高鍋　0－60　大阪工業大学高校

応援団代表　萱野浩介

昨年に続き、今回の応援団も多数の生徒・職員が参加することとなった。１回戦、富山工業戦は小雨の中行われた。あいにくの天候と寒さであったが、試合が始まると雨をもろともせずに突進するラグビー部員達が目に入った。この姿に応援団も勇気をもらい、ずぶぬれになりながら必死で声を枯らした。勝利した瞬間ラグビー部と共に味わった感動は一人一人の生徒の貴重な財産になったと思う。このような経験をさせていただいた後援会・ＯＢ会・関西県人会の方々、そしてラグビー部に感謝したい。

第87回全国高等学校ラグビーフットボール大会出場の御礼

高鍋高校ラグビー部ＯＢ会
会長　石田喜克

母校ラグビー部の６年連続17回目の全国大会出場に際しまして、鳴海ヶ丘会同窓会会員の皆様方、並びにＰＴＡの皆様方の多大なる御支援を賜り、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

尚、戦績につきましては、初戦富山県代表の富山工業高校に高鍋らしさを発揮し完勝。２回戦ではＢシードの大阪工大高校に３度目の対戦で屈辱のシャットアウト負けを喫しました。惜しくも今回は、正月を花園で迎えることはできませんでした。

しかし、後輩たちは立派に、そして正々堂々と、高鍋魂を発揮してくれたと思います。

新チームは、宮崎県新人大会において２年連続21回目の優勝の栄冠を勝ち取り、２月16日から宮崎県木花で行われる九州大会１回戦で沖縄県代表と対戦する事が決定しました。

最後になりましたが、鳴海ヶ丘会同窓会の今後、益々のご繁栄を祈念申し上げまして、全国大会出場の御礼の言葉とさせて頂きます。

「皆さんの努力に感謝」

同窓会長　岩岡保宏

鳴海ヶ丘会員の皆様には、ますますご健勝、ご活躍のことと、お喜び申し上げます。

同窓会、毎年のメインイベントである「ＯＢ祭」は、小泉桂一（昭和五十九年卒）実行委員長を始め、多くの実行委員の努力で十九年度は、盛大に終了しました。記念講演は、タレントの西川きよし氏が「福祉はわが家から」の演題で、義理の母親の介護を通して学んだこと、愛妻であるヘレンさんとの生活、家族の「つながり」の大切さをユーモアたっぷりに話されました。

二十年度は、染山昌幸実行委員長以下スタッフも決り、今は大忙しの時期だと思います。楽しみにしております。

ラグビー部は、第八十七回全国大会へ宮崎県代表として、六年連続、十七回目の出場権を得ました。心よりお祝い申し上げます。

選手諸君は、日頃より一致団結し、血の滲むような猛練習に耐えて来ました。県大会の決勝戦では強豪日向高校に前半七点のリードを許したが、後半高鍋の持ち前であるタフネスを発揮し、十二対七と逆転を決めて全国大会への切符を手にしました。

花園での一回戦の相手は、富山工業高校、選手の平均体重が10kg、勝る相手、いざ試合が始まると、高鍋の組織力、スピード、連携プレーと全てに上回り四十三対七で圧勝しました。二回戦はシードの大阪工業大学高校。高鍋は強豪相手に果敢に攻めましたが、相手攻撃の凄さとレベルの高さに圧倒されました。

「勝利した喜び」「負けた時の悔しさ」は選手の皆さんが一番感じていると思います。悔しさをバネに原点に戻り、今までの以上に精進を重ね、大きく飛躍されることを期待いたします。

関西同窓会の皆様、何からご協力ご支援を戴き、厚くお礼申し上げます。特に今年度ご退任されました前関西支部長の飛田様におかれましては、長い間ご苦労賜りまして誠にお疲れさまでした。卓越したご功績をたえ心より敬意を表します。

卒業生の皆様、三年間の努力ご苦労様でした。ラグビー部以外の部活動生の活躍も文化部を含めて、目を見張るものがありました。「高鍋」の名を県内外にアピールして下さいました。先輩方も皆さんの頑張りを心より誇りにしています。今後は、高鍋高校での教えを胸に、誠実であることの大切さを忘れず志を高く持ち、目標に向って一歩一歩確実な歩みを続けて下さい。皆さんが、舞鶴のごとく大きく羽ばたかれることを期待しております。

また高鍋高校同窓会「鳴海ヶ丘会」への出席をお待ちしております。

「見える学校をめざして」

学校長　河野　包

「鳴海ヶ丘会」会員の皆様には日頃より母校発展のため多大なるご支援、ご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。特に全国大会出場の際に、宿泊地の手配から練習場の確保、歓迎会並びに競技場での温かくも熱烈な応援等、安心して打ち込める環境を作って頂いたことに重ねて御礼申し上げます。

さて来年度から普通科の通学区域が全面的に撤廃されるのに伴い、過去５年間の定数を割った本校にとって生徒確保が最大のテーマとなった。そこで、私が最も力を注いだのは広報活動だった。というのも噂ばかりの実績を上げ、校門前に「広報掲示板」を設置した。まずは手始めに東大をはじめ難関大学、難関学部の合格者数と国公立大学全体の合格者数を記した。若干の躊躇もあったが、「見える学校」をめざすならば打って出るしかない。赴任してすぐに決断した。まだ始まったばかりの実績を上げ、ないのに正しく評価されていない。

背に腹は変えられないという思いのほうが勝った。同時に回覧板「高鍋便り」を発行した。掲示板、回覧板にも部活動の活躍を始め、学校のニュースを定期的に載せた。次に生徒会の活力と学校行事の機運を盛り上げるために「真善美の幟旗」を作り、行事のたびに掲げ、地域の皆様にも関心を待ってもらうようにした。「オープンスクール」（中学生への高校説明会）も二度開催した。内容も工夫改善した。おかげで例年より100名ほど参加者が増えた。勿論、中学校へも頻繁に出向き、説明会を行った。「『魅力ある高鍋高校づくり』を考える会」では「頑張れ」という温かい激励をもらった。また、旭化成に出向いての講演だけでなく、送迎バスを用意して最新鋭工場の見学までさせていただいた。

これらの活動がどれだけ、地域の皆様や中学生に理解してもらえたか自信はないが、入ってくる生徒の学力を伸ばし、心身の鍛錬に努め、しっかりした進路を実現させるとともに、社会に貢献する人材の育成に努める教育を推進して行くならば必ずや地域の信頼や期待に応えられるものと信じている。

学校間交流

生徒会顧問　眞鍋　智

今年度は山形県立米沢興譲館高等学校を生徒会とともに訪問しました。全校歓迎式典や歴史カフェ、ＨＲ交流、地域学習等を行い、夕食会や芋煮会では両校生徒が楽しく会食し交流を深めました。お互いの地域の歴史や風土を知るとともに姉妹校の絆を深めました。

「一生に一度」のＯＢ祭担当

ＯＢ祭実行委員会事務局長
野中康弘

毎年、八月に開催されます高鍋高校ＯＢ祭を担当いたします昭和六〇年卒業生を代表いたしまして、活動状況をご報告させていただきます。

現在、ＯＢ祭のテーマ及び特別記念講演の人選について、最終的な絞り込みの作業を行っているところです。

テーマについては、この会報が発行される頃には決定しているものと思います。

今年一月二日には学年全体の同窓会を開催し（一三七名出席）、ＯＢ祭の成功に向けて全体の意思統一を図りました。さらなる結束が深まったところです。

先輩方から代々引き継がれてきたＯＢ祭を担当するに当たり、身の引き締まる思いを感じつつも、『一生に一度』の私達のＯＢ祭を精一杯楽しんでいきたいと考えています。

ＯＢの皆様、学校関係者の皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

同窓会育英会 会長賞表彰者

普通科
山口　竜一（三〇二）
幸津　光（三〇四）
猪俣　結（三〇七）

生活情報科
坂本久美子（三〇八）

おめでとうございます。これからも益々頑張って下さい。

なんきんはぜ

〝いざいざ戦わん堂々と〟高鍋高校の伝統を象徴する応援歌。この応援歌は、多くの鍋校卒業生の心に印象深く残っているだろう。

私は今、鍋校男子バレーボール部で、恩師である藤本範行先生と部員18名と共に汗を流している。そして今回男子バレー部は「コーチングキャラバン」指定校となった。元全日本の泉水さんが初めて来校されてから約半年過ぎ、先日春高バレー県予選が開催された。ベスト８のシード権を守った高鍋は、翌日ベスト４をかけて小林と対戦。今までに１度もセットを落としたことのない相手である。相性はいい。県体育館での試合。いつもの練習や練習試合では到底味わうことのできない独特な雰囲気の中での試合だ。１セットを奪われ、高鍋は窮地に立たされた。その時、観客席からあの応援歌が聞こえてきた。〝北に尾鈴の峰あおく～いざいざ戦わん堂々と〟応援歌に後押しされ選手達は、第２セットへと向った。第２セット終了の審判の笛が鳴った…無常にもボールは高鍋のコートに落ちていた。惜敗だった。そして、悔しさと絶望感が強く残った試合となった。

もうじき３年生は鍋校を卒業し、１・２年生は次学年へと進級する。高鍋高校生よ！部活も勉強も人生も同じだ！大事な試合で負けたとき、試験で失敗したとき、何もかもが嫌になるとき。そのような状況に立たされた時、いかに這い上がれる強靭な精神力を持てるかどうかが大事なことだ！「いざいざ戦わん堂々と！」捉え方としては、微妙に違うかもしれないが、負けそうになった時に、堂々と戦う姿勢を忘れずにこれからの高校生活、そしてこれからの社会を生き抜いていこうじゃないか！。オッ！オッ！

「福岡支部総会」報告

前事務局長　高嶋紀子

平成19年度鳴海ヶ丘会福岡支部総会を昨年11月17日（土）ホテルニューオータニ博多において18時から行いました。総勢58名の出席者で人数的にはちょっと寂しいものがありましたが、出席者の方々のご協力で盛会のうちに終わりました。

高鍋高校からは河野包校長を始め、岩岡保宏鳴海ヶ丘会会長・藤本範行鳴海ヶ丘会事務局長のご臨席のもと平成20年度のOB祭実行委員の方々、昭和34年卒の私の同級生の応援参加があり、賑やかな楽しい会になりました。恒例になっている、ビンゴゲームも湯布院のホテル宿泊券の他焼酎〝百年の孤独〟や〝中々〟・〝黒霧島〟の人気焼酎など提供者のご協力により沢山の賞品あり、夫々に賞品をゲットされ喜んでいただきました。

途中、福岡では有名な山本華世さん（KBCテレビの〝ドウモ〟・FBSテレビの〝ナイトシャッフル〟で人気）に飛び入り参加して頂き、福岡のプロバスケットボールチーム（ライジング福岡）の代表として、無報酬で務める苦労話をしながら一人でも多くの支援者が欲しいと、キャップテンの川面剛さんと挨拶と協力のお願いをされました。後日、九電記念体育館で沖縄のチーム（琉球キングス）との試合では97対89という小差ではありますが、本拠地の試合では初勝利をしたと喜んでいらっしゃいました。因みにその試合は56年卒の岩切武史さん（バスケットOB）と観戦しました。山本華世さんにチケットをお願いしましたら最前列の席を取っていただき、間近に迫力ある接戦を楽しませていただきました。

長年、皆様に支えられ事務局をやってまいりましたが、今回の総会を最後に私の役目を終わりにさせて頂きました。本当にお世話になりました。右往左往しながらも大過なく努められましたことは原田浩名誉会長を始め、児玉直支部長・野津原誠彦支部長・井本重美、西山和子監査・宮崎恵事務局次長・日高勲会計や、中武清先輩・米田哲夫先輩他幹事役員の皆様の多大なご協力の賜物と感謝いたします。

今後は昭和56年卒の原誠子さんに引き受けていただきました。20歳以上も若返り、新しい福岡支部が出来上がることを期待しています。

最後に宮崎県立高鍋高等学校及び鳴海ヶ丘会福岡支部会の今後益々の発展と皆様のご健勝を祈念しております。

福岡支部総会　ホテルニューオータニ博多（11月17日）

「名古屋支部総会」紹介

幹事長　福本秀和

名古屋支部総会　全員集合（12月１日）

名古屋支部の総会を、12月1日（土）のお昼12時より、アパホテル名古屋錦にて行いました。高鍋から岩岡同窓会会長、河野学校長、山村季代先生、黒岩鳴海ヶ丘会館長に、又永友関西支部長等他支部の方にもご出席いただきました。30名程度の小さな集まりですが、今年作りました「高鍋高校鳴海ヶ丘会名古屋支部」の垂幕の元で、出席者全員和気あいあいと飲食懇談の時間を過ごしました。

今年に入り、週刊新潮の新年号で高鍋大師が紹介され、ラグビーマガジン2月号別冊付録の表紙を高鍋高校ラグビー部員が飾るなど、高鍋が大いにPRされています。そんななか現在支部として取り組んでいますのが、ラグビーOBの上杉法靖さん（昭和57年卒）を中心とした「若い人達の参加者拡大への取組み」と、「後援会他支部との交流や、東海地区県人会への参加等交流の輪拡大への取組み」です。

今後は更に、栗崎教雄会長（昭和35年卒）を中心に、若い人達が参加しやすい行事を企画して、後援会の伝統の輪を拡大して行きたいと考えています。

「春高バレー」ベスト4成らず

「春の高校バレー」に向けて、コーチングキャラバン校に指定された高鍋高校男子バレー部。八月末から元全日本選手の泉水智コーチに来高してくれて熱心な指導を受けた。新人大会では、ベスト4をかけて小林西と対戦したが、二セット目を取りながら惜敗。その後正月も返上しての練習、都城での九州を代表する強豪校（鎮西など）との合同合宿で鍛え上げて臨んだ春高バレーは一月二十六日から開催。まずは決勝進出を目標に闘ったが、準々決勝で小林と対戦し、蓄えた力を出し切れないまま敗れてしまった。鹿宮対県大会では勝っていた相手だけに惜しまれる。コチキャラ派遣中の様子は度々UMKニュースで放映され、話題になった。五ヶ月間の活動の様子は、なんと一時間番組にまとめられて二月二十八日に四時から放映予定である。

修学旅行

北軽井沢スキー場にて

東大寺にて

12月14日（月）～18日（金）4泊5日の修学旅行（関西・関東コースと群馬・関東コースの2コース）両コースとも天候に恵まれ、大きな問題もなく、「楽しく充実した修学旅行」となった。旅行先で、度々素直で礼儀正しいという評価を受けた。

伝統を基盤に新たな高鍋高校を求めて

進路指導主事　金永俊一

文武両道を目指し本年度も在校生一同勉学にスポーツに真摯に取り組み様々な成果を発揮してきました。進路面では現在約100名のものが国公立大学受験に向け特編授業に臨んでいます。私立大学、専門学校においてはまさに受験本番で一人一人の生徒が真剣に挑戦を続けております。真摯に取り組む本校の生徒はまさに凛々しく、美しく思わずエールを送りたくなる心境で一杯になります。きっとそれぞれの目標を勝ち取っていくものと信じております。

今年度は2年生対象に旭化成延岡工場見学を実施しました。本校OBで旭化成延岡工場の支社長・水永正憲氏のご好意により実現したものです。生徒は最先端の一流企業に大変刺激を受けたようで、勉学や将来の進路に気持を新たにしておりました。今後の進路選択に是非役立てもらいたいと思っております。

来年度より通学区域が撤廃となり新制度になりますが、これを機に地域との連携を深め、また地域教材のより一層の活用を図り、更なる学力向上と進路面の充実に努め、新たな本校の歴史を刻んでいきたいと考えております。

旭化成工場見学

感謝　製氷機寄贈

平成19年度OB祭実行委員より製氷機を学校に寄贈して頂きました。ありがとうございました。

新人大会・県高校総合文化祭戦績など

【県高校新人体育大会】

ラグビー
十五人制　第一位

ホッケー
女子団体　第一位

空手
女子形団体　第二位
女子組手団体　第二位
男子形団体　第三位
女子形個人　第二位　河野　志穂

テニス
女子団体　第二位

水泳
女子一〇〇m平泳ぎ　優勝　寺本　愛里
女子二〇〇m個人メドレー　第二位　寺本　愛里

バドミントン
女子シングルス　第三位　清水　沙希

【全国高校ラグビー大会宮崎県予選】

ラグビー　第一位（全国大会出場）

【県高校総合文化祭】

大会テーマ部門
優秀賞　大山　裕太

書道
甲斐　彩菜（優秀賞）
橋口　真子（奨励賞）

美術
柴田　大介（準特選）
黒木のどか（奨励賞）

文芸
児玉　桃子（散文部門優秀賞）
牧野　正美（短歌部門優秀賞）

吹奏楽　優秀賞

JRC
津曲　秀一（国際ボランティア部門スピーチコンテスト優秀賞）

【第三十一回全国高等学校総合文化祭島根大会】

放送
（団体）ビデオメッセージ部門
全国大会選抜賞
（団体）オーディオピクチャー部門
全国大会選抜賞

【文化部】

美術
平成十九年度明るい選挙啓発ポスター
黒木　梨沙（文部科学大臣・総務大臣賞）
松本　拳（銅賞）
平成十九年度人権ポスター
森田　寛子（最優秀賞）
横尾沙也加（優秀賞）
田中　彩加（奨励賞）

書道
第五十七回宮崎県教育書道展
片寄紗優莉（特選）
甲斐　彩菜（特選）
川添　美聡（特選）
榎本　瑞穂（特選）
阿萬　千穂（特選）
橋口　真子（特選）

【その他】

第五回くだものを使った料理コンテスト
中谷　好（優秀賞）